プラン・ユースグループ

2021 年度活動報告書

PLAN YOUTH GROUP
for Plan International

2022 年 7 月

Introduction

プラン・ユースグループとは

国際 NGO プラン・インターナショナルは、子どもの権利を推進し、貧困や差別のない社会を実現するために世界 75 カ国以上で活動する国際 NGO です。2013 年より若者の組織における意思決定への参画がグローバルで謳われるようになり、2014 年に日本のプランにもプラン・ユースグループが設置されました。

プラン・ユースグループの活動は、大きく 2 つに分かれます。1 つ目は、理事会や役員定例会への出席のほか、国内支援事業へのアドバイザリー活動。2 つ目は 2019 年 4 月からプランのアドボカシーグループと協働した、アドボカシー活動です。今年度は、初めてリサーチ（調査担当）、コンテンツ（イベント担当）、広報の 3 つのチームに分かれての活動を行いました。アドボカシーとは日本語で「権利擁護」という意味であり、「調査分析に基づく権利擁護のための具体的な提言」や「問題を広報する事で問題の認知を高める活動」によってその活動が行われますが、今年度はまさにそのような活動をすることができました。コンテンツチームが、リサーチチームの調査結果を用いたイベントを開催したり、広報チームがコンテンツチームのイベントの告知を行なったりなど、チーム制を活かし、全体としてもうまく連動することができました。

アドボカシー担当メンバーのミーティング

プラン・ユースグループの2021年度（アドボカシー活動は下線）

2021 年

7 月　役員定例会出席

8 月　文部科学省との意見交換（性教育に関して）

9 月　理事会出席

10 月　イベント登壇、自主企画イベント（SRHR：性と生殖に関する健康と権利）

11 月　自主企画イベント（スポーツ界のジェンダーバイアス）、（YGS[1]との合同企画）

12 月　役員定例会出席・Ｚ世代に関するプレゼンテーション実施

2022 年

1 月　自主調査実施（対等な人間関係について）

2 月　理事会出席、自主企画イベント(LGBTIQ+)（政治とジェンダー）、

東京都中央区「Bouquet」特集記事掲載

3 月　役員定例会出席、自主企画イベント（メディアとジェンダー）、自主調査レポート公開

4 月　新メンバー募集、Ｚ世代対象のサーベイの実施、「季刊セクシュアリティ 106」へ寄稿

5 月　新メンバー向けオリエンテーション

6 月　Ｚ世代対象のサーベイの結果報告会　自主企画イベント（対等な人間関係について）

内藤佐和子氏（徳島市長）によるご講演（2 月）

Youth Gender Studies との合同イベント（10 月）

[1] Youth Gender Studies（YGS）https://youthgenderstudies.wixsite.com/website

Advisory　アドバイザリー活動

今年度のアドバイザリー活動概要

1節　組織意思決定への参画

2節　Z 世代についての調査

3 節　Z 世代を対象としたサーベイの実施

4 節　中期事業計画への参加

5 節　国内支援事業に関するアドバイジング

1節　組織意思決定への参画

グローバルで組織の意思決定への若者の参画が謳われるようになり、2014 年にユースグループが日本のプラン・インターナショナルに設置されました。プラン・インターナショナルのアドバイザリー担当に求められることは、理事会や役員定例会に出席し、ユース世代の意見や感覚を組織の事業や方向性に反映させることです。今年度は、理事会が計 2 回、役員定例会が計 3 回開催され、ユースがオブザーバーとして参加。収支予算やグローバルの総会への参加活動報告などに対し、質問、意見を述べました。また、12 月の役員定例会では、Z 世代の重要性についてプレゼンテーションを行いました。

そして、今年度は、昨年度に引き続き、元プラン・ユースグループのゲレオ・マウリシオ・ホセ・カルロスさんがユース理事を担当。理事会にユースならではの新たな視点を提供するとともに、プラン・ユースグループの統括担当にも月 1 回程度アドバイジングを実施しました。組織の意思決定の場におけるユース・エンゲージメントが促進した 1 年でした。

2節　Z 世代についての調査

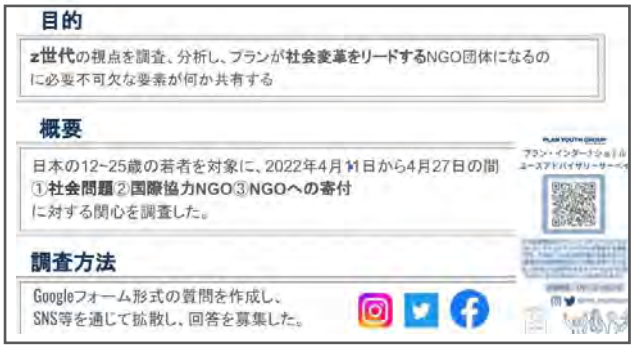
アドバイザリーグループは、定期的に開催される理事会や定例会に出席し、プランの組織の意思決定に参加しています。2021 年 10 月下旬から、1990 年代後半から 2015 年頃までに生まれた若い世代を指す「Z 世代」について調査を行いました。その結果、Z 世代の若者が他の世代に比べ社会課題や環境課題に一段と大きな関心を寄せていることが分かりました。このZ 世代の特徴を考慮した上で、プランの直接的な支援活動の価値とはまた別に、環境課題への取り組みや、職場の働きやすさに関する取り組み等の社会的な価値に注目し、それを「プラスαの価値」と名付け、その重要性について 12 月の役員定例会で発表しました。このプレゼンテーションの後、お伝えしたZ 世代の傾向の仮説が正しいのか、また具体的にどのようにプランの活動に影響しうるのかを検証したいと考え、下記の「Z 世代を対象としたサーベイ」を実施することにしました。

サーベイの実施

このサーベイを行うにあたり、目的を以下のように設定しました。「Z 世代の視点を調査、分析し、プランが社会変革をリードする NGO になるために必要不可欠な要素は何かを共有する」。これはZ 世代の傾向を分析し、実際にプランが社会変革を起こすには、今後何をしていく必要があるのかをサーベイ結果をもとに提案する、ということです。社会問題、国際協力 NGO、そして NGO への寄付、の 3 点に対する関心の程度を測るアンケートを google form で作成し、日本の 12 歳から 25 歳の若者を対象に 2022 年 4 月 11 日から 4 月 27 日の期間で調査を行いました。アドバイザリーメ

ンバーそれぞれの Instagram や Twitter 等の SNS を用いてサーベイを拡散し、期間中に 190 件の回答が得られました。

サーベイの結果から、Z 世代は社会問題への関心が高いこと、またそれらの社会問題の解決に対して行動を起こしている、または起こそうとしているという特徴が見られました。また、NGO を社会課題の解決アクターとして強く認識していること、その一方で、学生が高い割合を占める Z 世代は、金銭的な寄付が困難である場合が多く、寄付できない代わりに行動で貢献したいと考える人も多いことがわかりました。私たちはこれらのサーベイ結果とそこから推測される Z 世代の傾向について、職員の方々への報告会の場を通じて発表し、今後のプランの方針について提言しました。



4 節　中期事業計画への参加

時期中期事業計画策定プロジェクトに、プラン・ユースグループの代表としてアドバイザリーチームのメンバー1 人が参加しました。定期的に行われた会議の進捗状況を、その都度プラン・ユースグループの定例ミーティングにて他のメンバーに共有し、皆で意見交換を行いました。そして、そのフィードバックをプラン職員の方々にお伝えし、ユースの考えを中期事業計画の意思決定プロセスに反映していただきました。

5 節　国内支援授業に関するアドバイジング

アドバイザリーグループは月に一度、国内の居場所のない女の子を支援する国内支援事業の職員の方々とミーティングを行っています。そこで女の子のためのオンラインチャット相談や、2020 年に池袋に開設された 15 歳から 24 歳の若い女性に安心・安全な居場所を提供する「わたカフェ」の運営について助言をしています。具体的には「SNS のコンテンツはどのようなものがよいか」、「わたカフェのパンフレットの設置場所はどこがよいか」などの質問に答えたり、日常生活の中で生じる若年層ならではの悩みを共有したりしています。利用者の方と同年代であり、同じ女性である私たちは、常に利用者の立場になって考えることを心掛けて活動しています。今後も利用者の方々に寄り添った事業展開のアドバイジングに尽力していく所存です。

Advocacy　アドボカシー活動

今年度のアドボカシー活動概要

1 節　男女間における対等な人間関係づくりの実態調査

1項　調査目的

2項　調査結果について

2 節　国内のジェンダー問題に関する啓発活動

1項　SNS 発信

2項　外部ユース向け勉強会

3 節　その他

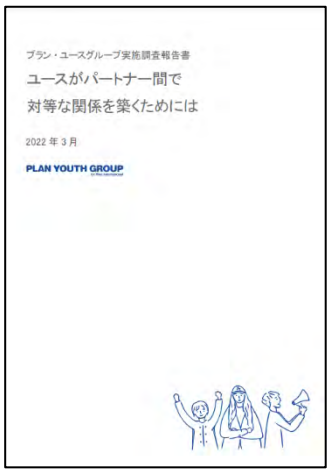
1項　事務局主催のイベント登壇

1節　男女間における対等な人間関係づくりの実態調査

1 項　調査目的・背景

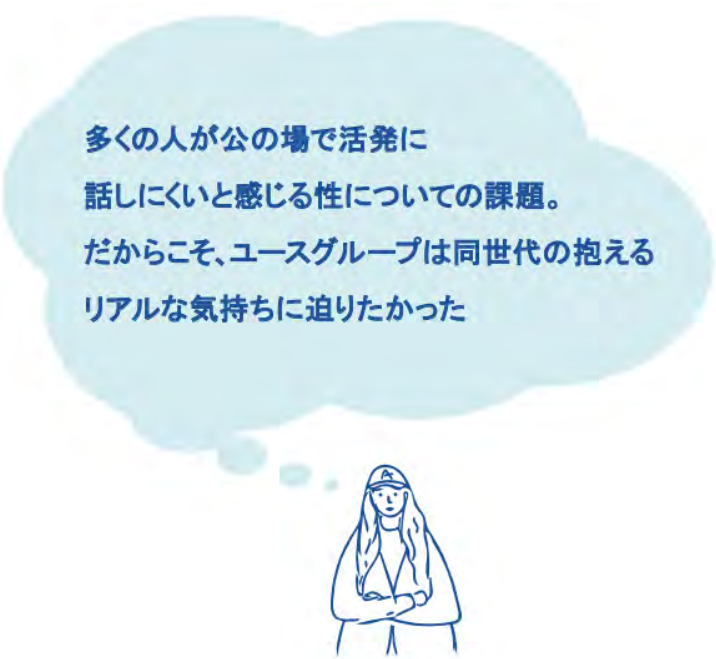
コロナ禍において、パートナーとの関係のなかで望まない妊娠、DV、性暴力の増加が見られ、平常時のジェンダー不平等による課題が顕在化しました。また、昨年度に実施した包括的性教育に関するアンケート調査結果から、ユースが恋人との良い関係の築き方に関する知識や避妊に関する具体的な知識をもっと身につけたいと考えていることが明らかになりました。

これらの点を踏まえ、カップル間の対等な人間関係づくりの実態を、性行為に関する事項も含めて問いを作成しまた。リサーチ会社であるパイルアップ株式会社を通して、調査に同意した 21~24 歳の男女 5 名に対し、オンラインで 1 時間程度のインタビューを行いました。本調査では、避妊、性的同意といった課題の多くが男女間で起きていることに鑑み、異性愛者を調査の対象としました。調査結果は、「ユースがパートナー間で対等な関係を築くためには」（2022 年 3 月）という報告書としてまとめました。



２項　調査結果について

インタビュー調査の結果、理想の異性像やパートナー関係は地域・家庭環境・学習環境(男女別学／共学)・歴史/文化的背景に基づくジェンダー観に影響されることが推察されました。性行為に関する項目では全ての回答者が性的同意を含むコミュニケーションや避妊の必要性を認識し実践していると回答した一方で、女性は性行為を愛情表現として捉えていること、男性は娯楽としての楽しさを感じているなど、性行為に対しての印象は男女間で異なることが分かりました。
また、今回の調査では、対等なパートナー関係を築くためにユースは学校の性教育に何を求めるのかも質問しました。その結果、より実践的な避妊方法や人権・ジェンダー教育の実施が必要であると回答しています。私たちは今回の調査結果を元にユネスコの国際セクシュアリティ教育ガイダンスのキーコンセプトに基づいて、ジェンダー平等に基づきユースが当事者意識を持てるような性教育の実施を求める提言を行いました。



２節　国内のジェンダー課題に関する啓発活動

１項　SNS による広報・発信

　インスタグラムと Twitter を用いて、情報発信を行いました。国連デーに合わせた発信や月ごとに設けたテーマ、開催したイベントに関する投稿をしました。同世代の人にジェンダー課題に興味を持っても

らうため、「家父長制と女性への影響」「生理と貧困」「多様なハラスメント」など様々なジャンルのジェンダートピックを取り上げ、SNS での発信を行いました。その結果、1 年で新たに 300 人以上の方たちにアカウントをフォローしていただきました。

画像編集や情報発信の経験がないメンバーが多く、最初は投稿をすることに不安を感じていましたが、皆で計画を立て、各々の投稿内容を検討し合いながら作成していきました。

投稿にあたり 1 番気をつけていたことは、間違った情報を載せないことです。そのため、ファクトチェックや信頼できる場所から情報を得ることに細心の注意を払いました。このようにして作り上げた投稿が多くの方から共感を得、フォロワーが増えるごとに 1 人でも多くの方にジェンダー課題に関心を持つきっかけになれているのだと実感しました。

インスタグラム投稿例

２項　ユースを対象としたイベント実施

プラン・ユースグループのメンバーとメンバー以外のユースが共にジェンダーについて学ぶためのオンラインイベントを計 4 回行いました。

	講師	テーマ・内容
第 1 回	遠見才希子先生 （産婦人科医）	「SRHR-日本における避妊の現状と課題-」 性にまつわる基礎知識から緊急避妊薬をめぐる議論について
第 2 回	山口理恵子先生 （城西大学教授）	「スポーツ界にみられるジェンダーバイアス」 近代から現代までのスポーツとジェンダーの関係性について
第 3 回	内藤佐和子氏 （徳島市長）	「政治におけるジェンダー」 全国最年少の女性市長が直面する社会のジェンダーギャップについて

第４回	松中権氏	「LGBTIQ＋」 ゲイ当事者である松中氏のパーソナルストーリーから、誰もが当事者意識を持つためにできることについて

毎回講演後には、参加者同士で感想を共有する時間を設け、専門家や当事者のお話を伺うだけではなく、参加者同士で対話してもらうことで、テーマをより身近に捉えてもらえるように工夫をしました。
また、番外編として２回のワークショップを行いました。10 月 11 日の国際ガールズ・デーを記念して行った回では、「ユースと話そう！ユースと考えよう！パートナーとの関係性」と題して、同じくジェンダー課題解決のために活動する学生団体「Youth Gender Studies」と合同で開催しました。ユース・グループの調査の簡易報告書の紹介や、性的同意やパートナーとの対等な関係性の築き方についてのディスカッションを行いました。
3 月 8 日の国際女性デーを記念した回では、「知ってる？メディアに潜むジェンダー規範」と題して、日頃よく目にするドラマや CM におけるジェンダーの描かれ方についてワークを行いました。ユースが気軽にジェンダーやセクシュアリティについて話せる場を設けることで、互いに新たな気付きや学びを得られる良い機会となりました。今年度のイベント・ワークショップ計 6 回を通して、のべ 120 名以上のユースにご参加いただきました。

松中権氏によるご講演（2 月）

3 節　その他

2021 年 10 月には国際ガールズ・デーを記念し、事務局が主催した「ユースに対する『オンラインでの有害な情報』を考える」というイベント[2]にユースメンバーが登壇し、オンライン上でのミスインフォメーション/ディスインフォメーションに関する率直な意見を述べました。 また、2022 年 3 月には国際女性デーを記念した「なりたい『私』になる！～女性がリーダーシップを発揮するために～国際女性デー2022」[3]においても登壇者、児玉治美さん（アジア開発銀行副官房長・プラン評議員）の聞き手役としてユースが活躍しました。

登壇者のみなさんと事務局スタッフ（10 月）

児玉さんとユースメンバー（3 月）

2022 年 2 月には「IMAGINE A BETTER WORLD（想像しよう、より良い未来を）」[4]をキーワードに、プランが活動する国の女の子たちが、コロナ禍で一変した世界をより良い方向へと変えていくためのメッセージを発信するという企画が展開されました。この取り組みに、日本のユースも参加し、ジェンダー平等にむけた思いを発信しています。

【写真】日本から参加した、みきさん
「女の子と女性の権利が（制度だけでなく）現実の仕組みとして、平等である世界を望みます」とメッセージを寄せました。

[2] 【開催報告】ユースに対する「オンラインでの有害な情報」を考える
[3] 【開催報告】オンライン開催「なりたい『私』になる！～女性がリーダーシップを発揮するために～　国際女性デー2022」イベント
[4] 【動画】女の子たちが思い描く「ポストコロナのより良い世界」

昨年度の性教育に関する調査をきっかけに、性教育に関する専門誌である「季刊セクシュアリティ 106」への寄稿を行うこととなりました。調査したことが少しでも多くの人の目に届くことを願っています。また、東京都中央区男女共同参画センターからのお声がけをいただき、同センターの発行する「Bouque」2022 年 2 月号のインタビューに参加しました。巻頭にインタビュー『「愛」と「束縛」を間違えないー自分も相手も大切にするために』というテーマに対するユースの意見が掲載されています。

季刊セクシュアリティ 106 号（2022 年 4 月号）

Bouquet (2021 年 2 月号)

昨年度に引き続き、今年度も包括的性教育に取り組めたことで昨年度の知識を受け継いだり、生かしたりするとともに、外部の方からもプランユースの活動の一部がわかりやすくなっているのではないかと考えます。